

今日の話は、「国歌」から入りたいと思います。「国歌」、国の歌ですね。日本でいえば「君が代」です。

皆さんが「君が代」を聞いたり歌ったりする場面はどんなときでしょう。学校でいえば入学式や卒業式、始業式や終業式などの儀式などがありますね。公式の厳粛な場で歌われるイメージです。

最近では、そこまで公式の場でなくても、例えば各種スポーツイベントの開会式などでも聞かれるようになりました。メジャーな歌手が「君が代」を独唱するようなこともよく目にするようになってきましたね。

さて、ではなぜこのような場面で「君が代」が歌われると思いますか。これは私個人の考えなので、皆さんに強要するつもりは全くないことを断った上で話します。

私は儀式やイベントで「君が代」が歌われるのは、「そのような儀式やイベントが無事に開催されるまでには、もうお亡くなりになった人を含めて、多くの日本人が日本という国で御苦労されてきた、そのおかげをもつて当日を迎えている。自分は彼らに敬意を払うと同時に、一人の日本人として誇りを持っている。」そんなことを皆で感じる場として国歌斉唱があるのではないかと思うのです。

国際試合となれば、相手の国歌も流れます。相手も自分たちと同様に、大切な国を代表して選ばれている選手たちです。テレビ画面に映る選手たちの表情を見ると、気持ちが高ぶっている様子も伺えます。双方の国歌を斉唱することで、それぞれの国に対する所属意識や責任感などが、より選手たちの前面に現れるのではないのでしょうか。選手たちを応援するサポーターたちも同じことです。

サッカー日本代表の森保監督は、ワールドカップ予選の「君が代」斉唱の時に、目を真っ赤にしながら歌っている様子がよく映りますね。「試合前から泣くな」みたいな、何も分かっていない無責任なネット民のコメントを聞いたことがあります。が、「何を言っているんだー!」と言いつ返しなくなりますね。

サッカーワールドカップという世界最高峰のスポーツイベントの予選を戦うナショナルチームの監督ともなれば、選手の選考からその起用法、選手個々のメンタル・フィジカル含めたコンディショニングの把握など、数え切れないほどの要素に気を配る必

要があると思います。それにはサッカー協会やチームスタッフなど、森保監督を支える人たちの力も絶対に必要でしょう。森保監督はサッカー日本代表をこの舞台まで支えてくれたそのような人たちに対して敬意を表するとともに、応援してくれるサポーターたちと一緒に「君が代」を歌うことで、自分たちが日本を代表して、相手チームと正々堂々とフェアに戦うことに対して誇りを持ち、武者震いをするほど感情が高ぶって、目に熱いものがこみ上げているのではないかと私は思うのです。

現役の選手時代から森保監督を見てきましたが、決して派手なタイプの選手ではありませんでしたが、堅実なプレーと冷静な判断が光っていた印象があります。その反面、うちに秘めた闘志みたいなものが垣間見えるので私は個人的に昔から応援しているのです。ちなみに歳も一緒なのでひいき目で見てしまいます。そんな森保監督が目を真つ赤にしながら「君が代」を歌うのを見ると、「日本代表を応援してくれるサポーターの前で、俺たちは日本人として全力を尽くしますよ」という気持ちを森保監督は強くしているのではないかと感じるのです。それが国歌が持つ力だと私は思うのです。

「君が代」の話題をもう一つしますね。校長通信でも書きましたが、私がイギリスに留学していたときのことです。週末の旅行中に乗っていた電車が故障して、途中の駅で降ろされてしまったことがありました。次の電車が来るまでには数時間かかるということだったので、駅近くのパブ（日本でいう居酒屋）に入ったのです。そのパブは店内に大型モニターがあつてスポーツ観戦ができる、近年では日本でも増えているスポーツバーみたいところでした。たまたまその日は、何の大会かは忘れましたが、イングランド対ドイツのサッカーの試合が放送されていたのです。当然店内は地元イングランドファンで溢れかえっています。試合前の両国国歌斉唱ではイギリス国歌の大合唱です。私も周りに合わせて歌っているふりをして、その後、おいしいビールをいただきながら試合を観戦しました。

友達と入ったわけではなく一人だったので、黙って飲んでいたのですが、そのうち明らかにイギリス人でない私を見て興味を持ったのか、一人の男が私に話しかけてきました。他愛のない会話を通して私が日本人だと分かったと、彼は「じゃあ、ここで国歌を歌えるか?」と言ってきたのです。本当に私が日本人だということを確かめたいのか、さつき自分たちでイギリス国歌を大声で歌った後だったのです、他の国の国歌も聞きたくなったのかは分かりませんが、私は何だか試されているような気がしたのです。イギリスの片田舎のパブで、大勢の無骨な酒飲みのイギリス人に交じって、日本人は自分一人という完全アウェイの状況で、「君が代」を歌えるか。

やらなかったら後で後悔すると思った私は、たまたま持ち合わせていた赤いボールペンでテーブルプキンの真ん中に円を描いて塗りつぶし、それを日の丸に見立てて左胸に当て、立ち上がって「君が代」を歌い出しました。ちよつとでも威厳をもたそうと思い、できるだけ低い声です。そうしたら、最初聞いているのはその会話相手だけだったのですが、「何か、国歌らしきものを歌ってるやつがいるぞ」という感じで私を見て会話をやめる人がどんどん増えていき、歌い終わる頃にはパブ中の人がしーんとして私に注目している状況になってしまいました。歌い終わったときには、「何だか、訳の分からない状況になったな」と思ったのですが、次の瞬間、なぜか拍手喝采、スタンディングオベーションです。その後は握手やハイタッチ攻めに会い、ハグまでされて何が何だか訳が分からない状況です。しかし私はこの時、例え酔っ払っていても他国の国歌を黙って聞き、他の人が所属する国に対してリスペクトするというイギリス人の姿勢に感動していました。そして、国歌「君が代」の持つ強烈な力を痛感したのです。

翻つて、学校の場合はどうでしょうか。学校には「校歌」がありますね。この「校歌」の力を感じた出来事も一つ紹介します。

私は鹿児島県の旧制一中と二中、つまり現在の鶴丸高校と甲南高校に勤めたことがあります。この二校には「甲鶴戦」といつて毎年四月の下旬に行われるスポーツ交換会があるのです。長年のライバル同士の対抗戦として非常に盛り上がるのですが、最終競技の野球をスタンドから全校応援した後の閉会式で、両校の校歌斉唱があるのです。どちらの生徒も力の限り校歌を歌うのですが、私はどちらの学校にいたときも、多くの新一年生から「甲鶴戦で校歌を歌って、やつと本当の鶴丸生・甲南生になった気がする」という言葉を聞いてきました。自分の学校を代表して勝利を目指して全力で競技する、またはその仲間たちを全力で応援する。そういう経験をした後にそれぞれの校歌を歌うことでより一層、自分の学校に対する所属意識・責任感・愛着などが増していくのだと思うのです。「国歌」と同様、「校歌」にもそのような力があるのだと私は信じています。

皆さんはそんな気持ちで校歌を歌ったことはありますか。本校には「甲鶴戦」のような対抗戦はありません。ですが、「俺は与論高校生だ」という意識で校歌を歌うことはできるはずです。学校代表で何かに出場するようなときは、部活動であろうと総探の発表であろうと、できる限りの準備をして全力を尽くす。校内の行事も仲間と協力して言い訳をせず、少しでもいい成果を残すために努力をする。そういう経験を経た後に歌う校歌は、ひと味違ったものに感じられるはずです。直

近で校歌を歌うのは体育祭ですね。競技や応援の練習が、今きついと思いますが頑張ってください。一・二年生は島を象徴する文化であるエイサーを堂々と演じてください。皆さんが体育祭の閉会式で、晴れ晴れとした表情をして、大きな声で校歌を歌っていることを期待して、今日の講話を終わりたいと思います。